

◆除雪功労2人たたえる

県富山土木センター立山土木事務所の今年度県道路除雪功労者等表彰式は、立山町元気交流ステーションで行われ、管内事業所の2人をたたえた。

川向徹所長が、20年以上除排雪作業に従事するマスター部門で酒井建設（上市町）の瀬川栄司さん、10年以上従事のジュニアマスター部門で山本組（同）の山本一徳さんに賞状を手渡した。

◆車いすバスケット交流

富山福祉短大車いすバスケットサークル「REAL」と放課後等デイサービス「チャイルドサポートこぼん」（高岡市）は、市ふれあい福祉センターで交流会を開いた。写真。学生9人が施設を利用する児童生徒7人と車いすバスケットボールで親睦を深めた。児童生徒は、学生に



教わりながら競技用の車いすの操作やドリブル、シュートを体験した。

◆温暖化の仕組み学ぶ

高岡工業高で、北陸電力の出前授業が開かれ、電気科の2年生40人が地球温暖化を防ぐために、さまざまな発電方法を組み合わせることの重要性に理解を深めた。

北電高岡支店の塚本幸史専任副課長が講師を務めた。地球温暖化の仕組みを学ぶ実験が行われ、空気と二酸化炭素（CO₂）を入れたビニール袋を赤外線ヒーターで15分温めると、CO₂を入れた袋の方が4度ほど熱くなることを実証した。塚本さんは普及が期待される電力源として地熱や水素などを紹介し、「発電コストを抑えながら、実用化の可能性がゼロでない研究は進めるべきだ」と指摘した。

◆高校生が農業生産者訪問

県農業教育振興会入善支部の就農青年育成懇談会は入善、朝日両町で開かれ、入善高農業科13人と中央農高4人がコメや野菜などの生産者を訪ね、農業の魅力や苦勞を聞いた。

入善町の蒼ファームでは、田中智春代表が補助制度を活用して大型農業機械を約10台導入したことや冬場の仕事確保に野菜の比率を高めていることを紹介した。生徒は朝日町のあさひ農学舎、入善町の農事組合法人島も見学した。